

繪
畫
雜
話

全

特105

443



始



特105
443

序

余辱半農詞兄之知。爰二十年。能知其有文事。而未
知有畫事。今始讀高著繪畫雜話。叙述簡明詳實。洵
為初學之指針。固非尋常畫史所及也。嗟乎亦何等多
才。何等多能。

大正癸丑小春

玉邨弟 柚梶雄

大正
3.28

序

凡爲繪畫之事。有日本畫。有支那畫。有西洋畫。而流派起原各異焉。今也畫風一變。古人所貴之氣韻雅致。漸將廢。方此時。佐野半農君。有繪畫雜話之著。詳述繪畫之區別及其起原等。以便于世上學畫者。洵可謂好著也。余亦因此著得知古今流派之沿革畫法等。其爲賜也大矣。豈可無一言而止哉。是爲序。

大正三年二月上浣

看山小澤泰撰

繪畫雜話

佐野半農著

御需ノニ應ジテ今晚ハ繪畫ノ話ヲスル併シ自分ハ斯ノ道ニ素養ガナイデ自然誤解シタ話ヲスルモ知レンデ夫レハ宜ク取捨シテ下サイ

第一 繪畫ノ區別

繪畫ト云フ熟字ハ筆墨ヲ以テ物体ヲ描寫シタル總稱ナレ凡是レヲ二ツニ區別スレバ畫ガ先キニ生レテ繪ハ後チニ出來タモノデアアル 畫ト繪トノ區別ヲ一口ニ申セバ 物体ノ骨ト筋トヲ墨デ描ヒタガ畫デ夫レニ肉ヲ附ケテ彩リタルガ繪デアアル

第二 起源

畫ハ文字ヨリハ先キニ出來タモノデアアル 畫ダケデハ事物ノ意味ヲ顯スニ不便デアアルカラ物体ニ象ツテ文字ヲ造タモノデ形象文字ト云フノデアアル 史記ニモ

始畫八卦以通神明之德以類萬物之情造書契以代結繩之政トアリ十八史ニモ伏羲氏始畫八卦造書契トアル孔安國モ龍馬負圖出河遂則其文以畫八卦ト書テ居ル惟フニ繪畫ハ餘程萬事ニ先ダツテ出來タモノデアル東洋デモ西洋デモ三千年以上ノ昔カラ有タコトハ歴史ト遺物トガ確實ナル證據デアル

第三 日本デ繪畫ノ原始

日本ノ古代史デハ繪畫ノコトヲ餘リ見當ランガ出雲風土記ニ坂日子命國巡行坐時至坐此處而詔此處者國雅美好有國形如畫鞞哉吾之宮者是處造事者詔故云惠伴トアル此時既ニ柄繪ガアル以上ハ神代ニ繪畫ガアツタコトハ明カデアル近年黒川博士ガ筑後國ノ上妻郡ノ大内村デ大伴ノ波加滿呂ノ墓ヲ掘ラレタラ種ナル太古ノ陶器ガ出タ其陶器ニ人間ノ像ヲ彫附テアツタ之レ等ノ證據ニ徴シテモ太古ニ繪畫ガアツタコトハ確實デアル

第四 繪畫ノ性質

繪畫ノ性質ヲ人間ニ譬フレバ繪畫ハ形体ナリ文章ハ音聲ナリ繪畫アツテ始メテ千載ノ昔事モ萬象ノ狀態モ知ルコトヲ得文章アツテ始メテ其情勢ト其動作トヲ詳ニスルモノナリ故ニ繪畫ト文章トハ苟モ偏廢スベカラズシテ恰モ鳥ノ兩翼ノ如キモノデ繪畫ニ文章ヲ加ヘタナラ如何ナル事デモ疏通セント云フコトハナイモノデアル

第五 繪畫ノ妙趣

繪畫ハ美術ノ根本デアルカラ勿論美麗ヲ要スルケレモ唯人ノ眼ヲ娛マシムダケデハ繪畫ノ本旨ヲ完フシタトハ云ヘンノデアル一本ノ筆デ描ヒタ一幅ノ繪畫デ人ノ精神ニ無限ノ感動ヲ與ヘ人ノ感情ヲ和ラゲ人ノ心性ヲ優美ニ導ク程ノ大威力ヲ具備シテ居ラネバナランモノデアル譬ヘバ觀音ヲ描ケバ人禮拜シテ自カラ信仰ノ念ヲ生ジ菊ヲ寫セバ蝶來ツテ花ニ戯レ雪景ヲ畫ケバ人自カラ膚寒ムキヲ感ジ馬ヲ認ムレバ夜毎出テ田野ヲ荒ラスト云ガ如キニ至テ始メテ繪畫ノ妙

境ニ達シタト云フモノデアル

第六 繪畫ノ用途

日本デ用途ノ沿革ハ 第一ハ掛物之レハ神仙佛陀聖賢ノ像ヲ描ヒテ專ラ崇敬ノ用ニ供シタモノデアル東山時代ニ至テ山水ヤ花鳥ヲ畫ヒテ書院ヤ茶室ノ床飾ニスルコトニナツタ 其次ハ壁張之レハ大建築ノ壁ニ畫クノデ法隆寺ノ金堂ノ壁ニ描ヒテアル曇徴ノ畫ヤ名古屋城ノ書院ノ壁張ノ如キモノデアル 其次ハ障子之レハ今日ノ襖デアル延喜天曆ノ時代ニ行ハレテ居タ彼ノ紫宸殿ノ障子ニ聖賢ノ像ヲ畫ヒタコトハ三尺ノ童子デモ知ツテ居ル 其次ハ屏風之レハ彼ノ有名ナル東大寺ノ鴨ノ屏風ノ如キモノデ六曲モアリ八曲モアリ東山全盛時代ニ流行シタモノデアル 其次ハ卷物之レハ神社佛閣ノ祭禮ヤ縁起ヤ上ツ方ノ行事ヤ野遊杯ヲ寫シタモノデアル 其次ハ額之レハ俗ニ云フ繪馬デアル昔ハ重立タル神社ニハ皆神馬ヲ飼フテアツタ今日デモ大社ニハ馬ヲ飼テアル中途カラ馬ヲ養フコ

トノデキヌ宮ニハ木馬ヲ造ツテ置クコトニナツタ木馬モ出來ヌ社ニハ木ノ板ニ馬ヲ畫ヒテ掲ルコトニナツタ之レガ額ノ始リデアル 其次ハ駒形俗ニ云衝立デアル室町時代ニ支那カラ傳ツタモノデアル 其次ハ天井之レハ佛閣ヤ書院ノ天井ニ蟠龍ヲ畫キ東山時代カラ合天井ニ花鳥ヲ描クコトニナツタ 其次ハ扇或ル時代ニ扇合ト云テ扇ノ繪合ガ流行シタ 其次ハ陶器漆器彫刻武具等ノ裝飾ニ用ルコトニナツタ之レモ東山時代デアル 其次ハ挿繪之レハ書籍ヲ註解スルニ繪畫ヲ用ユルノデ著書中ノ要所ニ繪畫ヲ挿入スルコトデ江戸時代ニナツテカラ多ク行ハレタモノデアル 其次ハ江戸繪之レハ時ノ風俗ヲ寫ノデアル 其次ハ帖之レハ南宗畫ガ流行シ出シテカラ畫帖ガ始ツタノデアル 此外諸方面ニ用途ハ澤山アルケレモ大略スノ如キモノデアル

第七 古代ノ繪畫

希臘ヤ印度ノヨウニ緻密ナル古畫ハ日本ニハナイケレモ近年筑後ノ國デ發見シ

タ石窟ノ中ニハ華紋ヲ彫附テアツタ之レハ確ニ神代ノ畫デアル 夫レカラ泉州ノ大鳥郡ノ舩松村ニアル 仁徳天皇様ノ御陵ノ石棺ノ畫ヤ武藏ノ荏原郡ノ大森村デ掘出シタ陶器ニ彫テアル畫ニハ丹朱ヲ用テ彩色ヲシテアル之レ等ガ最モ古ヒ繪畫デアル

第八 古代ノ畫家

古代ノ畫家ノ名ハ歴史ノ上デハ分明ナランガ二十一代 雄略天皇ノ朝今ヨリ約千五百年程前ニ百濟ヨリ因斯羅我ト云フ畫師ヲ貢ヒダ夫レト稍同時代ニ支那カラ安貴公ト云フ人ガ歸化シタ其子ノ辰貴ト云フ人ガ繪畫ガ上手デアツタ歴史上判然分ツテ居ルノハ之レ等ノ人デアル 其後 文徳天皇ノ御代ニ百濟ノ河成アリ清和ノ朝ニ巨勢ノ金岡アリ續テ相見公望飛鳥常則等誰モ知テ居ル通り有名ナル畫家デアアル

第九 中代ノ畫家

巨勢家デハ 深江弘高金忠金持 宅磨家デハ 爲氏爲成爲遠爲久爲行 春日家デハ 基光隆能隆親 住吉家デハ 慶恩 土佐家デハ 經隆長隆吉光行光行秀光信 曾我家デハ 蛇足宗丈紹仙 狩野家デハ 正信元信直信宗信 阿彌家デハ 藝阿彌能阿彌相阿彌 僧侶デハ 明兆雪舟覺融啓書記 此外澤山アルケレモ重立タル人ヲ舉グレバ大畧斯ノ如キモノデアアル

第十 近代ノ畫家

土佐家デハ 光成光吉光起光茂光祐 曾我家デハ 宗譽紹祥紹叔直庵 住吉家デハ 如慶具慶廣夏廣保 狩野家ハ家筋ガ數々アル 鍛冶橋家デハ 探幽探信 探船探雪探常 駿河臺家デハ 洞雲洞春元仙洞白洞益 京家デハ 山樂山雪永納永梢永伯 木挽町家デハ 尙信常信如川榮川 隨川家デハ 峯信甫信幸信昆信菱川派デハ 道茂師宣師房師永 英派デハ 一蝶二代一蝶一蝟一舟 岩佐又兵衛西川祐信鳥居清信宮川長春北川歌丸ノ輩ハ各一派ヲ立ツ 圓山派デハ 應

舉芦雪源琦徹山素絢 四條派デハ 月溪景文豊彦文鱗義董 岸派デハ 岸駒岸
岱文鳳竹堂 南宗デハ 南海百川霞樵春星竹田海屋對山 此外文晁華山竹洞椿
山梅逸狙仙在中容齊等皆有名ナルモノデアル

第十一 南宗 畫

南宗畫ヲ俗ニ文人畫ト云フ之レハ支那デ昔唐ノ時代ニ王維ト云人ガ書キ始メテ
夫レカラ判活張宏董源等ノ人ヲ經テ日本ヘハ寛永年間ニ明ノ心越ト云人ガ來テ
傳ヘタノガ始メダト思フ其後ニ伊孚九江稼圃等ノ高手ガ渡來シ祇南海池大雅等
ヲ經テ普ク流行スルコトニナツタノデアル

第十二 北宗 畫

支那ノ唐ノ時代ニ李思訓ト云人ガ書キ始メ趙幹伯駒馬遠等ノ人ヲ經テ元朝時代
ニ日本ヘ傳リ雪舟派ヤ狩野派ガ其流レヲ斟酌シタモノデアル

第十三 南北ノ區別

支那デ畫ガ南北ニ派ニ分レタノハ唐ノ時代デアル 夫レハ彼ノ楊子江ヨリ南ノ
方ノ人ノ書ク畫ヲ南畫ト唱ヘ楊子江ヨリ北ノ方ノ人ノ書ク畫ヲ北畫ト稱スルコ
トニナツタ 江ヨリ南ノ地勢ハ溫藉ニシテ縈紆ナリ 江ヨリ北ノ山水ハ奇傑ニ
シテ雄厚ナリ 是ヲ以テ南ノ人ハ溫潤和雅ノ性ヲ帶ビ北ノ人ハ剛健爽直ノ質ヲ
有ス 之レハ天然ノ地勢上稟ケ來ル自然ノ性質ニテ筆紙ノ上ニ一ツハ溫和ニ表
ハレ一ツハ剛健ニ彰レ遂ニ兩派ヲナスニ至リタノデアル

第十四 支那派ノ畫

里恭玉蟾若中ノ徒ハ明清時代ノ畫風ヲ專ラ用ヒタモノデアル 文晁華山ノ輩ハ
南北兩派ニ明清風ヲ折衷シタモノデアル 之レ等ハ南北正派以外ノ支那風デア
ル

第十五 名 畫

和畫ノ五筆トハ 光長慶恩吉光行秀行光デアル 土佐ノ三筆トハ 基光光信光

起デアル 狩野ノ三筆トハ 元信重信守信デアル

第十六 三品

三品トハ第一神品第二逸品第三能品此三ツデアル之レハ繪畫ノ品位ヲ稱スルノ
デア

第十七 六法

六法トハ第一氣韻生動第二骨法用筆第三應物寫形第四隨類傳彩第五經營位置第
六傳摸移寫ノ六ツデアル之レヲ詳細ニ話セバ面倒デアルカラ省略スル概子讀デ
字ノ通デアル

第十八 六要

六要トハ第一氣運兼力アル第二格刹共ニ老ユ第三變異理ニ合フ第四彩繪澤アル
第五去來自然ナル第六師ニ學ンデ短ヲ捨ツ此六ツデアル
支派第十九 六長

六長トハ麤鹵筆ヲ求ム僻造才ヲ求ム細巧力ヲ求ム狂怪理ヲ求ム無墨染ヲ求ム平
畫長ヲ求ム此六ツデアル

第二十一 三病

三病トハ板刻結ノ三ツデアル一板トハ手腕軟弱ニシテ筆癡ナルコト 刻トハ運
筆暢發ナラズシテ心手相戾ルコト 結トハ行カント欲シテ行ク能ハズ散ゼント
欲シテ散ズル能ハザルコト之レハ運筆ニ關スルコトデ繪畫ノ最モ禁忌デアル

第二十二 十忌

十忌トハ第一遠近不明ナル 第二布置拍密ナル 第三山ニ氣脈ナキ 第四水ニ
源流ナキ 第五境ニ彛險ナキ 第六路ニ出入ナキ 第七人物偃僂ナル 第八樓
閣錯雜ナル 第九滲淡宜キヲ失フ 第十点染法ナキ 此十ヶ條ハ繪畫ニ最モ嫌
フコトデアル

第二十三 用墨

墨ニ潑墨破墨焦墨濕墨活墨死墨ノ名ガアツテ墨ノ用ヒ方ニ注意スルコトガ必要
デアル書ヲ認メテモ紙絹ニ熏煤ヲ塗タ如ク遠近正側ノ明モ濃淡顯晦ノ別モ分ラ
ズシテ少シモ光彩ヲ發セザルヲ死墨ト云テ甚賤メルモノデアアル

第二十三 布置 六段ニ出入マキ 筆ノ人時 筆ノ七 筆ノ八

繪畫ハ一紙一幅ノ上ニ煙嵐雪樹村落原野曲折高下遠近反映疎密虛實少シモ東添
西湊ノ嫌ナキヲ布置配列ノ整フタト云フモノデアアル

第二十四 俗 俗ノハ 筆ノ二 筆ノ三 筆ノ四 筆ノ五 筆ノ六 筆ノ七 筆ノ八 筆ノ九 筆ノ十

五俗トハ第一格俗第二韻俗第三氣俗第四筆俗第五圖俗 此五ツデアアル 格俗ト
ハ新意ヲ構造セズ畫作ノ千遍一律ナルコト 韻俗トハ筆墨變化ナク趣致ニ乏シ
キコト 氣俗トハ格局卓出ナク墨氣昏暗ナルコト 筆俗トハ用筆ノ道ヲ識ラズ
平庸ニシテ筆勢ナキコト 圖俗トハ史料ニ乏ク事物ニ疎ク徒ニ繁華ノ筆ヲ弄ブ
コト 此五俗ヲ脱シテ始メテ雅趣ヲ生ズルノデアアル

第二十五 四 格 四ノハ 筆ノ一 筆ノ二 筆ノ三 筆ノ四 筆ノ五 筆ノ六 筆ノ七 筆ノ八 筆ノ九 筆ノ十

四格トハ畫家ノ心得方デ第一ハ心地ヲ清フシテ俗慮ヲ去ルコト 第二ハ書ヲ讀
ンデ理境ヲ明ニスルコト 第三ハ早譽ヲ却チテ遠到ヲ期スルコト 第四ハ風雅
ニ親ミテ体裁ヲ正スコト 此四格ヲ備ヘテ始メテ畫家ノ品位ガ優美高尚ニナル
ノデアアル 昔ノ畫家ハ手腕ヨリモ此四格ヲ重ンジテ居タカラ何トナク高尚ナ所
ガアツタ 今ノ畫家ハ技術ニノミ馳セテ此四格ヲ重ンゼンカラ人格ニ於テ昔ノ
人ニ及バヌ点ガアル 繪畫ハ手腕デ書カズシテ精神デ描カネバ鬼神ヲシテ感動
セシムルト云フ妙境ニハ入レヌノデアアル

第二十六 遠 遠ノハ 筆ノ一 筆ノ二 筆ノ三 筆ノ四 筆ノ五 筆ノ六 筆ノ七 筆ノ八 筆ノ九 筆ノ十

三遠トハ高遠平遠深遠此三ツデアアル 山水杯ニハ最モ注意セネバナランコトデ
アル

第二十七 四 人 規 四ノハ 筆ノ一 筆ノ二 筆ノ三 筆ノ四 筆ノ五 筆ノ六 筆ノ七 筆ノ八 筆ノ九 筆ノ十

四規トハ丈山尺樹寸馬豆人ノ規定デアアル此規矩ニ外レルト畫ノ理屈ニ適ハンコトニナル

第二十八 則テマシ 山水林石ハ景ヲ表スルモノナリトシテ
四則トハ遠山無皴遠樹無枝遠水無波遠人無目ノ四ツデアアル之レハ誰デモ知テ居ル
人ニテ第二十九 樹木式

樹木ヲ畫クニ四ツノ式ガアル夫レハ老樹無枝古木多節有葉枝柔無葉枝硬ノ四ツデアアル

第二十五 地形ノ名稱

畫ヲ書クニモ觀ルニモ地形ノ名稱ヲ知テ居ラネバナランモノデアアル夫レハ峯トハ山ノ尖リテ峭ナルモノ 巒トハ山ノ圓ナルモノ 頂トハ山ノ平夷ナルモノ 嶺トハ山ノ連互セルモノ 崖トハ高く壁立スルモノ 岫トハ穴アルモノ 巖ト

ハ岨ノ石ニ懸ルモノ 壑トハ徑路ノ山ニ夾マルモノ 澗トハ山ノ水ヲ夾ムモノ 溪トハ溜湫シテ川ニ注グモノ 瀨トハ山下ニ潭アルモノ 坂トハ段アルモノ 此外平原田圃河海嶋嶼等ニ種々ナル名稱ガアルケレト輒ク話シ盡セルコトデナレ之レハ地文學ノ範圍ヲ犯スヨウニナルデ態ト話ヲ省略スル

第三十一 皴法

皴法ハ數々アルケレト普通十六皴法ト云フ夫レハ披麻彈渦礬頭亂麻大斧雲頭芝麻小斧雨点荷葉絡繹馬牙亂柴鬼皮牛毛解索ノ十六デアアル 此外家々デ新ニ案出シタ皴法ハ澤山アルケレト大概十六皴法ノ内カラ生タノデアアル

第三十二 點法

點法モ數々アル一寸ト山水ヲ畫クニデモ鼠足胡椒菊花垂藤車輪一字介字鋸齒等ノ點法ヲ用ネバナラン 此外描ク物体ニ依テ大字点トカ小字点トカ力心字点トカ向々ノ點法ヲ用ユルノデアアル 動物ノ眼睛点ハ誰デモ知テ居ルケレト之レデ

モ鷹ヤ虎ノ眼ニ用ユル眼睛点ト神仙佛陀ノ靈像ノ眼ニ用ユル眼睛点トハ点体ガ
絶對ニ異ルノデアアル之レハ素人デハ判リカネルコトデアアル
点法第三十三一ヤ描山水法ニマテ鼠尾尾混交檄頭曹衣蚯蚓
描法ヲ通常十八描法ト云フ夫レハ遊絲琴絃鐵線行雲馬蝗鼠尾混交檄頭曹衣蚯蚓
棗核檄欖折芦柳葉水絃竹葉枯柴減筆ノ十八デアアル之レモ雪舟派ハ減筆描ヲ用ヒ
土佐家ハ鐵線描ヲ用ユルト云位ナコトハ誰デモ知テ居ルコトデアアル
第三十四ノ筆法六種ハ
筆法ハ枚舉ニ違アラズデ迎モ話シ盡スコトハ出來ン譬バ四君子ノ蘭一株ノ葉ヲ
畫クニモ鼠尾鮒行鳳眼象眼破鳳眼破象眼蠟蠟殼皮釘頭等ノ筆法ヲ用ヒネバナラ
ンモノデアアル又梅ノ花ヲ畫クニデモ向陽觀向背陰風落柿帶正陽右偏苞花笑春
貫珠三台迎風大放小放等ノ法ヲ用ヘネバナラン
簡單ニ見ヘル四君子デモ斯ノ
如ク六ヶ敷イモノデアアル況ンヤ複雜ナル繪畫ハ面倒デ容易デナイコトハ推シテ

知ルベシデアアル

以上述べ來ツタコトハ九牛ノ一毛ニモ値センケレモ自分ハ專門ノ素養ガナイカ
ラ之レ迄デ仕舞ニスル

繪畫雜誌終

272
168

大正三年三月十五日印刷
大正三年三月廿五日發行

書籍目録
この本は、著者の著書である。内容は、
以上述べた通りである。この本は、
昭和十一年三月十五日印刷
昭和十一年三月廿五日發行

著者 佐野篤太郎

發行者 佐野博

岡山縣眞庭郡勝山町大字月田
第三千二百九十九番地

印刷者 岩井秀太郎

岡山縣苫田郡津山町
大字伏見町十四番地

印刷所 岩井活版所

岡山縣苫田郡津山町
大字伏見町十四番地

定價金拾參錢

終

